

京奈和自動車道御所区間

# 御所市 中西遺跡第 26 次調査 現地説明会資料

～古墳時代前期集落の調査～



奈良県立橿原考古学研究所

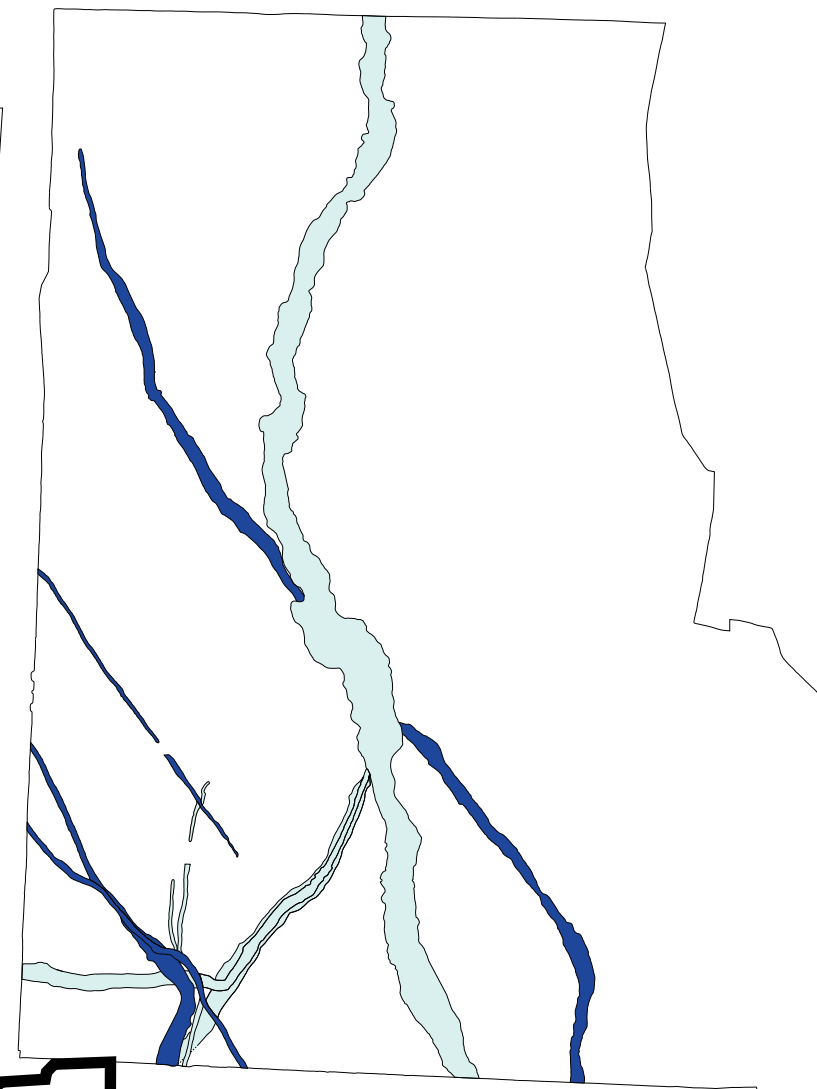
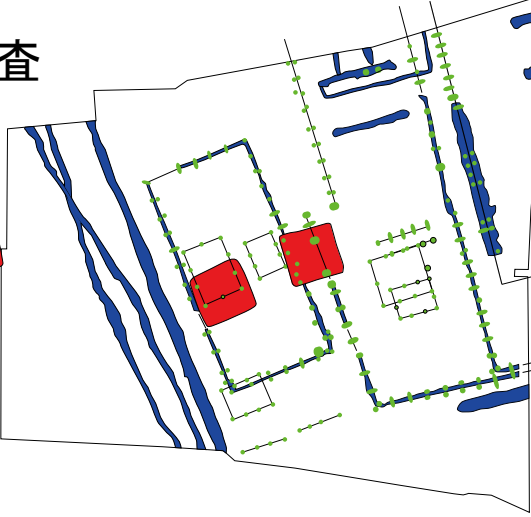
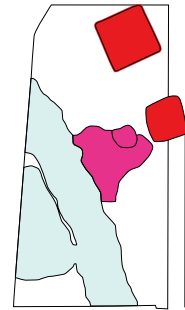
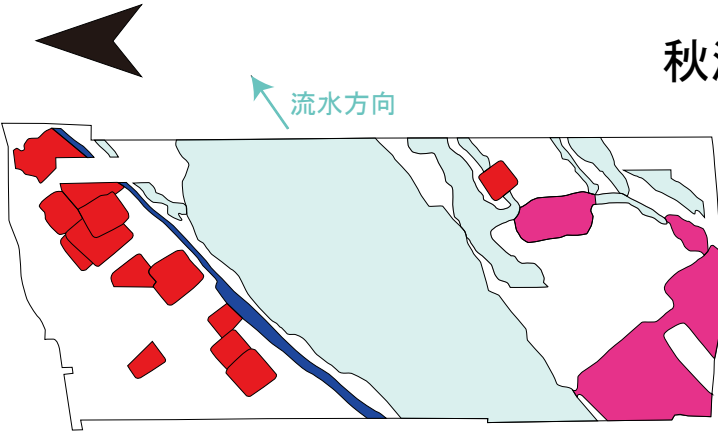
平成 27 年 8 月 23 日



# 秋津遺跡・中西遺跡における古墳時代の遺構模式図

秋津4～6次調査

秋津2・3次調査



- 竪穴建物
- 土坑・井戸
- 区画溝
- 流路・溝
- 柱穴

井戸1遺物出土状況と井戸枠の立ち上がり断面

鏡形石製模造品



調査地位置図

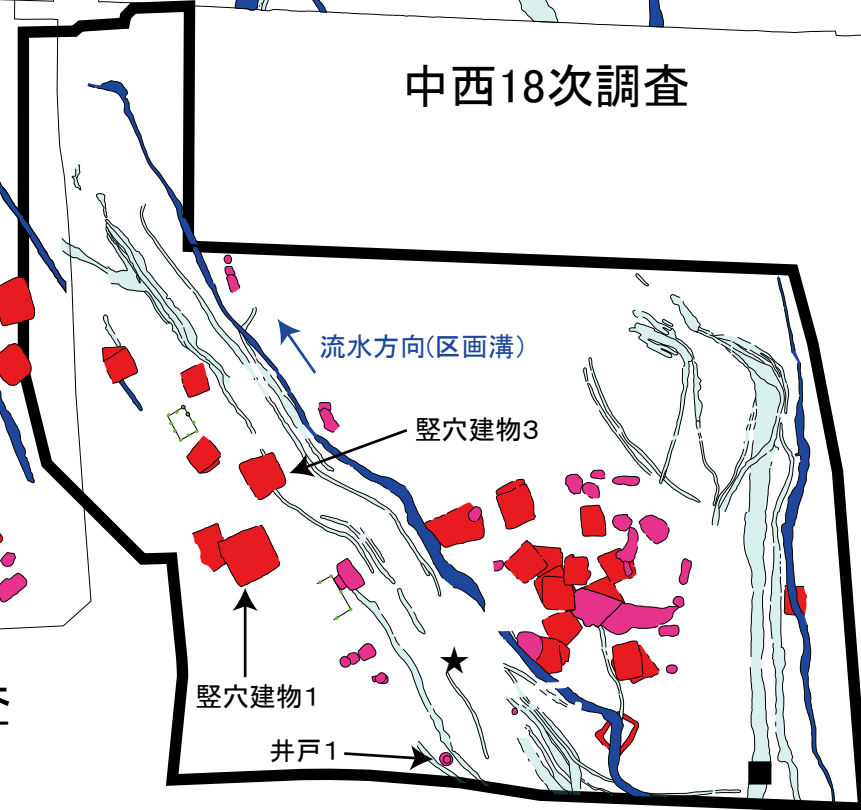
「国土地理院発行1/25,000地形図(御所)を使用」



竪穴建物3遺物出土状況(南から)

秋津7次調査

中西18次調査



- ★は、鏡形石製模造品出土地点
- は、展示遺物出土地点

中西26次調査(今回の調査地)





## はじめに

今回の調査は、京奈和自動車道御所南インターチェンジ建設予定地内において実施したものです。当研究所では、2009年度以降、同事業にともなう発掘調査を継続するなかで、秋津遺跡では古墳時代集落、縄文時代のクワガタ、中西遺跡では弥生時代前期水田など注目される調査成果を挙げ、その一端を、現地説明会などの機会を通じて公表してきました。

秋津遺跡を中心とするエリアに広がる古墳時代前期の遺構群は、溝・柵により囲まれた方形区画施設と独立棟持柱建物で構成される「祭祀空間」と、竪穴建物・土坑・溝などで構成される「居住空間」に分かれる屈指の集落遺跡であることが明らかになりました。

今回の中西遺跡第26次調査区は、秋津遺跡の古墳時代前期集落からみて南西に位置し、北側の秋津遺跡と南側の中西遺跡が接する地点になります。調査の結果、古墳時代前期の遺構が、今回の調査区のほぼ全域に広がっており、秋津遺跡と一体的につながることがわかりました。

同事業予定地内において、秋津・中西遺跡の古墳時代集落を大規模に調査する最後の機会となります。そこで、これまでの調査成果と合わせて、古墳時代集落に焦点を絞って調査成果を紹介したいと思います。

## 調査の成果

古墳時代前期の遺構としては、竪穴建物・掘立柱建物・土坑・井戸・溝などがあります。重複する遺構もありますが、竪穴建物は26棟を検出しました。これらの竪穴建物は、調査区の中央やや北寄りの位置で検出した西南西―東北東方向の溝によって、北側の群と南側の群に区画されています。

北側の群に属する竪穴建物1・3の床面直上からは、土器が放置された状態で出土しており、生活の一端を垣間見ることができます。また、井戸1からは高坏や甕などの土器がまとまって出土しており、井戸の祭祀で使用したと考えられます。このほかにも、祭祀で用いた土器を投棄したと考えられる土坑・溝が確認されています。

注目される遺物には、流路から出土した鏡形の石製模造品(滑石製)があります。古墳時代前期後半頃のものと考えられ、石製模造品の初期の例です。直径6.1cm、高さ1.1cm、重さ97.33gです。県内では橿原市曾我遺跡、四条大田中遺跡などに次いで4例目です。石製模造品は、集落内での祭祀にともなう遺物だと考えられます。

## まとめ

周辺の調査成果から、今回の調査で確認した竪穴建物群は秋津遺跡と一体のもので、全体の範囲は南北約400m×東西200m以上に及ぶことが明らかになりました。

集落の北端と南端は流路により画され、内部は溝により細分されています。そしてそこに方形区画施設(祭祀空間)と竪穴建物群(居住空間)が計画的に配置された構造であることが確認できました。

集落の構成は、纏向遺跡トリイノ前地区で確認された、東西方向に直線的な建物配置をもつ居館遺構と同じく、計画的な配置がなされていたと考えられます。

纏向遺跡の居館遺構の想定範囲は、南北100m×東西150mとされていますが、これは秋津遺跡の方形区画施設の想定範囲である南北100m×東西150mとほぼ同じであり、相互に比較できる規模となりました。

秋津・中西遺跡の古墳時代集落に関する発掘調査は、今次調査で一段落することになります。両遺跡から出土した遺物は、現在、整理作業を進めており、より詳細な様相が明らかになるものと期待されます。